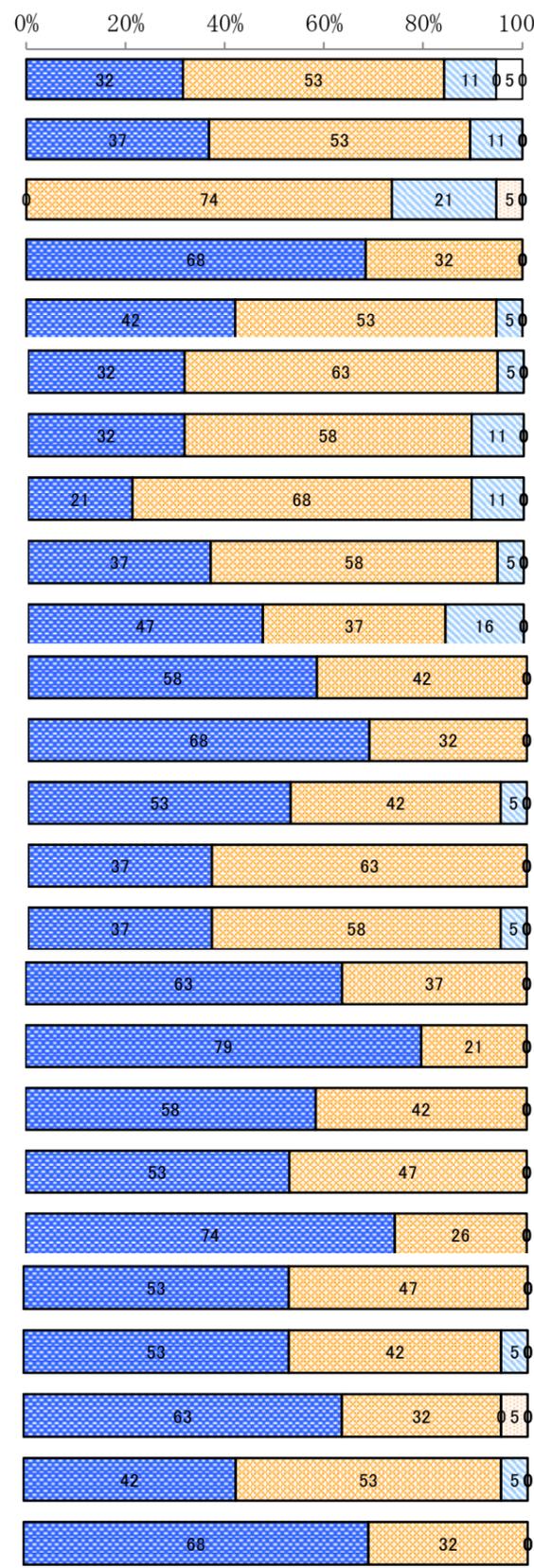
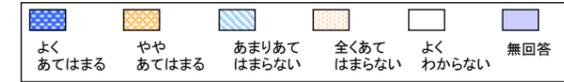


アンケートの結果			上段：生徒 下段：保護者等 グラフ：教職員					
			A	B	C	D	よく分らない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	42	42	11	1	4	0
	2	児童・生徒の様子	65	33	2	0	0	0
	3	基本的生活習慣	49	44	6	1	0	0
	4	児童・生徒理解	40	48	8	0	4	0
	5	健康・安全・安心	58	37	2	1	3	0
学力向上の取組	6	分かる授業	33	52	11	1	3	0
	7	個に応じた指導	33	50	9	2	5	0
	8	学習習慣	25	38	28	8	1	0
	9	情報教育	45	46	7	1	1	0
	10	学校図書館の活用	38	48	10	2	2	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	51	42	3	1	3	0
	12	道徳教育	56	37	5	1	2	0
	13	教育相談	36	39	14	6	6	0
	14	人間関係づくり	65	30	4	1	1	0
	15	自主的な活動	49	42	5	1	3	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	36	38	8	2	16	0
	17	相談への対応	44	40	5	1	9	0
	18	学校への参加	52	37	8	1	2	0
	19	地域との連携	40	36	17	5	1	0
	20	意見の反映	39	44	7	1	10	0
各学校の特色ある教育	21	基礎・基本の徹底	33	48	12	3	3	0
	22	進路指導の充実	35	46	6	1	12	0
	23	道徳	27	41	5	1	25	0
	24	JRC活動	36	39	11	2	11	0
	25	学校生活のきまり	38	44	7	1	11	0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

教育目標および方針について、保護者の9割以上から肯定的な評価を得ており、学校経営の方針が十分に浸透していると判断できる。引き続き、入学説明会等を通じた丁寧な周知継続に努める。

生徒の肯定率が97%と極めて高く、大半の生徒が学校生活に楽しさや充実感を感じている。これは本校の最大の強みであり、今後も生徒が安心して通える環境づくりを継続する。

教職員の評価が厳しい。現状の指導に満足せず、基準を高くした指導を努めていく姿勢が求められる。生徒・保護者の認識は良好であり、基本的生活習慣は定着していると言える。今後は生徒の自主性をより尊重した指導へ移行する。

教職員全員が児童・生徒理解に努めており、その姿勢が生徒・保護者の安心感や信頼につながっている。今後もアンケートや面談を通じ、一人一人に寄り添った指導を継続する。

防災教育や安全管理体制について、三者ともに高い評価で一致している。引き続き危機管理意識の維持・向上を図り、誰もが安全で安心して学校生活を過ごせる環境を整える。

生徒の授業満足度は概ね良好だが、保護者の約2割が実態を把握できていない。オープンスクールに加え、学年通信やHP等で日々の授業風景を発信するなど、学習指導の可視化を図る必要がある。

習熟度別指導や補習等の取り組みについて、No.6と同様に保護者の周知が十分とは言えず認知不足の状況にある。具体的な支援体制や指導を可視化して配信する必要がある。

生徒の肯定率が最も低い。教員は指導したつもりではあるが、生徒には定着していない現状がある。本校が抱える重要課題の一つである。従来の宿題指導に加え、ICTを活用した学習記録やAIドリルの導入など、生徒が主体的に取り組める仕組みを取り入れる必要がある。

タブレット端末の活用は日常化しており、生徒もその効果を実感している。今後は家庭学習との連携を強化し、持ち帰り学習のルール作りや活用頻度の向上を目指す。

生徒の利用状況は良好だが、保護者への認知度が低い。図書館活動が校内に留まっている。図書便りの家庭配布や、読書週間の取り組み紹介を強化し、読書活動の家庭への啓発に努める。

生徒の肯定率が高く、人権教育が心に届いていることが窺える。一方で保護者の「分からない」といった意見が目立つ。人権作文や講演会の様子を積極的に発信し、理解を深めていただく。

「考え、議論する道徳」の実践が進み、生徒の評価も高い。授業で扱ったテーマや生徒の感想を学年通信等で紹介し、家庭でも話題にできるように情報提供を行う。

生徒・保護者ともに2割弱が制度を十分に認識していない、または利用しづらいと感じている可能性がある。SCだよりの配布などで内容理解の周知に努めると共に、デジタル相談窓口の周知など、相談のハードルを下げる工夫を講じる。

行事や体験活動を通じた仲間づくりが極めて良好に機能している。いじめ防止の観点からも、現在の異学年交流や集団活動を維持・発展させていく。

生徒会や委員会活動に主体的に取り組んでいると評価できる。生徒の活動の様子を地域掲示板に貼るなどし、校外への発信機会をさらに増やしていく。

保護者への情報発信は極めて高く評価されている一方、生徒自身への伝達に改善の余地がある。生徒向けの掲示板や校内放送などの活用を再考する。

保護者からの相談に対し、迅速かつ丁寧に対応できているとの評価を得ている。今後も家庭との連携を密にし、信頼関係の維持に努める。

学校公開や行事等は参加しやすい環境が整っている。今後は来校が困難な保護者向けに、オンライン配信や動画共有などのハイブリッドな発信も検討する。

教職員の意識に比べ、生徒・保護者の地域連携への実感が薄い。ボランティアや外部講師の活動を可視化し、地域に支えられている学校であることを周知する。

保護者の4人に1人が対応状況を把握できていない。アンケート結果や要望に対する学校の対応策を文書でフィードバックするなど、双方向のコミュニケーションを強化する。

コンテスト等の学力向上施策について、保護者の認知度が低い。結果の表彰だけでなく、取り組みのプロセスや家庭での励まし方を伝える工夫が必要である。

学年に応じたキャリア教育の全体像が見えにくいとの結果が出ている。3年間の見通しを持たせるため、年度当初に進路指導計画（ロードマップ）を保護者に提示する。

研究指定校としての取り組みが、保護者の約4割に認知されていない。研究指定校として急務で改善されなければならない現状である。研究授業の公開やHPでの特設ページの開設など、最優先で広報活動を強化し、取り組みの意義を共有する。

ボランティア活動等は保護者からも高く評価されている。一方で生徒の2割以上が関心を寄せていない。ボランティア掲示板など誰もが気軽に参加しやすい環境を作る。また参加した生徒へのフィードバックを充実させ、さらなる参加意欲の向上につなげる。

概ね理解されているが、一部生徒に浸透していない面が見られる。校則の見直しプロセスに生徒会を参画させるなど、自分たちのルールとしての自覚を促す機会を設ける。

